



「世の中に桜というものがなかったら、春の心はもっと穏やかであったろうに」などと言った古人がおりました。現在、桜前線は津軽海峡を越えました。右の写真は元荒川右岸に残る「興亜の桜」です。昭和15年(1940年)に“紀元2600年”を記念して植樹されました。当時この桜を眺めた人の中には生還できなかった人もいたことでしょう。そして現代では、コロナ禍、地震、入学・進学や就職、出会いや別れなど、様々な思いで花を眺めた方々も多かったことと思います。



未知の時代の姿が徐々に～8世紀の“こしがや”～

“空白の4世紀”を少し埋めることができそうな発掘調査が奈良県で行われています。富雄丸山古墳です。2m30cm以上の蛇行剣や盾型銅鏡のほか、豎櫛や銅鏡を副葬し水銀朱の施しも確認できる木棺が出土しています。1600～1700年ほど前のこの時期の文献史料はわが国にも中国にも乏しいので“空白の4世紀”と称されるのですが、当時のことは古墳や集落遺跡などを中心に研究が進められています。

また滋賀県大津市では、幻と言われていた坂本城の石垣の一部が発見され、調査が進められています。戦国時代に明智光秀が琵琶湖畔に築いたものですね。地元では国指定史跡を目指しているとの報道です。

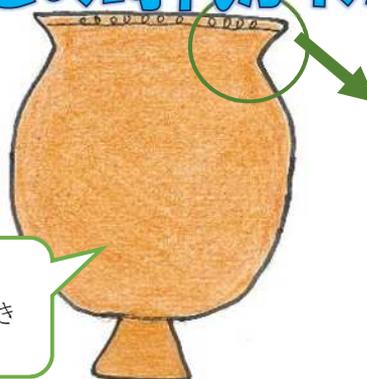
越谷市でも毎年複数箇所の発掘調査が行われていますが、平成29年(2017年)には市域で最も古い3世紀後半(弥生時代末～古墳時代初め)の豎穴住居址と甕が確認されています。(増林中妻遺跡)

そして昨年度末には、大相模地区の西口遺跡で8世紀の溝と土器片が発掘されました。この時代の遺物出土は初です。その土器(土師器)の特徴をお話する前に、古代前半～中盤の“こしがや”の様子を略年表でみてみましょう。

世紀	時代	“こしがや”の出来事	日本全体の動き	世界の動き
1,2	弥生		九州にいくつもの小国家 卑弥呼の邪馬台国	ローマ帝国や漢王朝が繁栄 中国は三国時代
3	生	増林中妻遺跡: 豎穴住居址、甕出土		
4	古		奈良に大和政権	ゲルマン民族大移動開始 ローマ帝国分裂 中国は戦乱の時代
5	墳		倭の五王、宋に朝貢 埼玉古墳の鉄剣製造	中頃から中国は南北朝時代
6	飛鳥	見田方遺跡: 住居址、勾玉出土	仏教伝来 聖徳太子の政治	隋が中国統一
7	鳥		大化の改新 645年～ 壬申の乱 672年	イスラム教起る 唐が中国統一 新羅が朝鮮統一
8	奈良	大相模不動堂(大聖寺)建立 750年 大成町西口遺跡: 溝跡、土器片出土	平城京、東大寺造営 荘園成立始める 鑑真来日 753年 古事記・日本書紀成立	フランク王国、西欧州支配下に

なぜ、土器片からその時代がわかるの？

住居址や溝、井戸などの遺構からは多くの土器(片)が出土します。それらは果たしてどの時代のものなのか…それは出土した地層から判断されることもありますが、今回は甕の形状から判ることをご紹介しましょう。



【3世紀】 台付甕(増林中妻遺跡出土)
口縁部の刻んだ痕が3世紀の特徴。煮炊きを炉で行っていた時代の甕。

【6世紀】



かめ
甕
(見田方遺跡出土)

煮炊きに甕(かまど)を使うようになると、このような甕が作られるようになります。

「炉(ろ)」と「甕(かまど)」

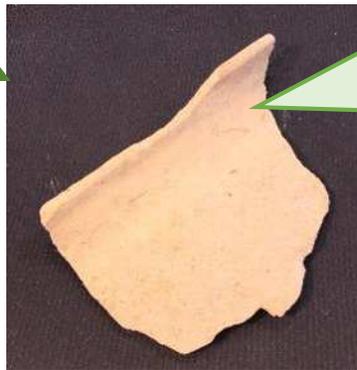


↑
炉(ろ)



↑
甕(かまど)

【7~8世紀】



かめ
甕(西口遺跡出土)

胴部が長くなり、口縁部がゆるく外反します。この頃の土師器はかなり薄く作れるようになってきました。

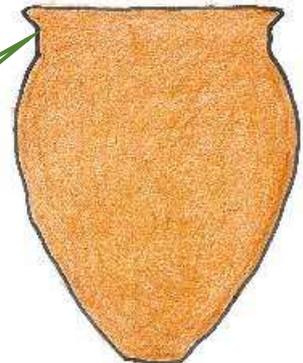
昨年度末に出土した、**市域では初めての8世紀の土師器**です。

【9世紀】



かめ
甕(海道西遺跡出土)

口縁部の下がカタカナの「コ」の字のように直線的になっています。これは「武蔵型甕」と呼ばれ、関東地方周辺の特徴です。



このようにして口縁部付近の形状によってその土器の時代が判明します。これ以外にも整形時につけられた土器の

外側や内側のヘラ痕、ハケメ痕なども時期や地域によって異なるようです。これは膨大な発掘史料の集積と分析によってなされたものです。考古学は社会科学と自然科学の双方の学問によって積み重ねられてきました。

土師器は、前掲の年表に示した時代の中でも作り方、技術が進化しています。土器表面のヘラ痕やハケメ痕を観ると、丈夫で熱伝導効率のよい甕を作ろうとする先人達の意図が伝わってきます。調査の職員はその跡も丁寧に記録します。考古学、歴史学はそれを解き明かし過去のことを調査研究する学問ですが、それは現代社会を捉え将来を考えるためのものなのでしょう。

この調査・研究に携わっているのは大学や博物館などの研究機関だけでなく、本市にも発掘調査を担っている職員がいて、今号では担当職員の話聞いて記事を作成しました。

ボク、高師小僧です！



元荒川に近い発掘現場から出てきました。竹輪のような形状と大きさです。土中の鉄分が葦などの根元にまとわりついて固まった後、その植物が腐食して空洞となり、このようなものになりました。「たかしごう」と言います。

「古民家だより」バックナンバーにも発掘の記事があります(越谷市HP)

No.4 = 大道遺跡 No.44 = 地中から学ぶ No.56 = 海道西遺跡 等